

ネ
ウウデス

オ 板神ハドウシテ出席シナカシタ

ヒ 判リマセン

オ 會合後ハドウシタ

ヒ 林ト共ニハ千代館ニ泊リマシタ

オ 女ニ昭和七年五月十三日ノ行勅ヲ尋ネルカ十三日ニハ千

代館デ林、矢吹、横須賀ト会フテドニテ話ヲシタカ

ヒ 千留彈ヲ渡スニ就クテ打合せマシタ

オ 湯水が矢吹ニ桶が大買ニ横須賀カ小室ニ千渡スニト

ニシ湯水が手配ヲ慶生ニ傳ヘルニトニツタノダネ

ヒ ソウデス

オ 林カヲ千留彈六個短刀七把ヲ買取タノハ十三日カ

ヒ 十四日デス

オ 被告ハ十三日山本園ニ行ツタネ

ヒ ハク行キ之シタ

オ 誰シト面會シタ

ヒ 古賀池松ト面會シタ

オ 其ノ時、誰ノ四言ハ

ヒ 首相官邸四大臣官邸警視ヲ三菱銀行等ヲ襲

撃ニル誰ガアリ奥田ガ三菱銀行ヲ襲生ハ午後七時十五

分頃変電所襲撃ヲシテ其ヒ度イトノ誰ガアリ之シタ

オ 拳銃一挺彈丸八発短刀七口ハ古賀カラス取リ之シタ

オ 其ノ時拳銃ノ取扱オラ習ソタ相ヤナリカ

ヒ ハク教ヘテ是レニシタ

オ 短刀ノ七口ハ

ヒ 変電所襲撃ノ甲心ノ爲メニ持ツテ居ル様ニトノエト

テアリ之シタ

オ 昭和七年五月十四日の行動ハ何トカ

ヒ 小黒ノ処ニ行キ小黒ヲ連シテ八千代館ニ泊リマシタ
其ノ前ニ赤サシカラキ手榴彈ヲ取リ投ゲル時ニハ安
全年ヲ逃シテ四十度ノ角度ニ投ゲルノカツト教ハ
ラシマシタ (此ノ巴前ヲ取リ又戻る)

オ サシハ十一時過キノ汽車ヲ泊リマシタ

オ 手榴彈ト短刀トヲ取リニ来タカ

ヒ 小黒カ居タノテ小黒ノ合カ渡シマシタ

オ 堀ニ手榴彈ニ個短刀ニ口 過水ニモ手榴彈ニ個短刀ニ

口ヲ渡シ其ノ際 証明ラシタカ

ヒ 渡ス時ニ証明シマシタ

オ 去シハ変電所 襲撃ノ爲ニ使フ武器ナシタネ

ヒ 右様ヲス

オ 之ヲ十四日ノ行動ハ終ツテ其ノ晩ハ八千代館ニ泊リタノ

ダネ

七 右様デス

時一午後二時十九分少惣ニ入ル

今二時四十分一再用席被告後尋ノ詔向ヲ続行

昭和七年三月十三日ノ行動ニ付テ要旨ヨ

十音ノ早朝八午代館ニ一カ来テ昨夜遅ク

来タガ八午分館カ籍ヲ居タノゾ的ニタトチフ話デレタ

夫ハ林サシノ命令テ来タトチフ話デレタ

川崎ノ長光君カ旅費ヲ奔走シテ貰ヒタウトチフ話デ

金ハ橋カ預ツテ矢ハ横須賀限水ニモ入テ私モ取リシタ

此ノ時以テ君ニハ初メテ会ヒ世島谷カ下リテ上野ノハ

午分館ニ行キ私ノ金トヨリテ三十三日以テ君ニ

テ之ヲ以テ君ニ送リテ君ニ送リテ君ニ送リテ君ニ

テ之ヲ以テ君ニ送リテ君ニ送リテ君ニ送リテ君ニ

テ之ヲ以テ君ニ送リテ君ニ送リテ君ニ送リテ君ニ

アリニシタ川島の君は古賀ニ命をヒタウト云々が私り人
フゆ要ハナト思ヒニシタが自動車で生舞々甚々固ア古賀
ニ命ヒニシタ其ノ時山小舟モ村山モ居リニシタ川島の
君が古賀ニ命をヒタウト云々ト初ハ命ヲト云々テ居ルタガ
大令降符ヲ恒カシカッタが私ハ其様ニ人目モアルシ合ハ
ナクテ居ラナク今ハナクテモ良ウト思ヒ古賀ニ話スト古賀
ハ私ニ対シ私ハ古賀ノ手紙ヲ十日白ニ甚々固テ古賀
ニ命ヲト一切合切俺ニ責任ヲ負ハセル様ニ話ラセヨト
云フノテ再ビ自動車デル等君ノ居ル東京駅ニ行キ
話ニシテニシタ

其ノ話ノ終ル所ト云々シラ持ツタ人か這入ツテ来ニシタ
古賀中尉ハ金ガアツテ処命ニ困ルテ居ルト云フノテニ四
〇円私ガ貰ヒニシタ川島の君ニヤセウト云ラト四十円
アルカク俺ハ要ラナクト云フノテ其ノ場ハ別シ八千円餘

ニ行クト湯水ト矢吃キか居リ小屋ニ十五日ト后ノ塾生を
ニ十日先渡レシタ矢吃ト麵麦ヲ食バ私ハ八ヶ代館ヲ
六湯ニ入り五時頃出テ東京駅ニ行クト川等ヲ君ニ生合ヒ
別シテ私ハ警視ヲ決行ハ何ウナツタカト思ヒ六時頃カ
ト思ヒユスガ警視ヲノ周囲ヲ自動車ヲ一週ト電車所
一ハ地理不案内ノタメ行カテカツタノデス東京駅テハ軍部
少佐士官ガ首相信即ラ龍襲撃ヲセタトテ早外ヲ見コトタ
七時三十分ノ汽車テ高野ニ向ヒ翌日山陰線テ午後四時過
ル松江ニ着キマコトタ

オ
セテハ東京駅テ龍襲撃ヲ知ッタカ其ノ時大養育相ノ
師級サシタ事ハ知ラナカッタカ

七
大養育相ノ事ハ知ラナカッタカ

オ
何故電車所ノ龍襲撃ヲ見届ケナカッタカ

七
今思フト何故見届ケナカッタカト思ヒユス

又、松江ニ着テカスル

神 十七日、朝、新聞、テ林正ニ、捕ムルト云フ、記事、ヲ見テ、林
サニ、捕ムル、ナラバ、私モ、自首、コトケル、ハ、ナラ、ト、思、タ、カ、其、ノ
時、ハ、俸、カ、痛、ク、テ、困、ウ、テ、居、リ、マ、ス、ト、入、日、ニ、ハ、〇、〇、〇、〇、カ、此、ノ
タ、ト、云、フ、記、事、テ、ア、リ、マ、シ、タ、カ、去、シ、ハ、私、テ、ア、ル、ト、思、ヒ、自、首、シ、タ
カ、タ、カ、私、モ、滿、洲、ニ、行、ク、ト、思、フ、テ、居、リ、マ、シ、タ、カ、松、江、迄
来、タ、ノ、テ、ア、リ、マ、ス、ガ、自、首、仕、様、ト、決、心、シ、仕、度、ニ、報、セ、ラ、ト、云、ト
比、企、サ、シ、カ、留、リ、去、シ、テ、語、セ、ト、自、首、ス、ル、ナ、ラ、バ、一、所、ニ、行、ク、ト
松、江、ノ、憲、兵、隊、へ、自、首、シ、タ、ノ、テ、御、意、を、ウ、マ、ス、其、ノ、理、由、ハ、古、賀、ハ
自、首、ス、ル、時、ニ、ハ、憲、兵、隊、ニ、自、首、シ、テ、是、レ、ト、云、フ、語、カ、ア、ラ、マ、カ、ラ
テ、ス

オ 十八日、自首シタメ、去、シ、近、ノ、向、ニ、ハ、電、報、所、ノ、襲、撃、事、ヲ
モ、判、切、リ、令、ア、ツ、テ、居、タ、ノ、ダ、ネ
令、ア、ツ、テ、居、リ、マ、シ、タ、メ

テ

オ 被告ノ現在ノ心境ハ

ヒ 被告ノ現在ノ心境ハ
私ハ腐敗多ク自治体ヲ見ル時ニ何日デモ之而的ナ多ク分テ
街あり之らメ正ニ時分ヲ改造セヨ自令ノ心デアリノ乍ラ自カ
トシテ何ウエルゾモ未ナカク私ノ大和魂トデモ之ニセウカ
夫シガソウタノデアリニ然ラモ一天萬上ノ而治下ニ於テ
國法ヲ犯シタリト罪萬死ニ儔ルゾ之分覺悟シテ悔ム
今后固ビ斯ル事ヲ繰返サザル様名実共ニ更生シ昭和ノ
名ニ相應房人シキ一息ノ重キキ而民ノ生活カ一カモ早キ
毎月現サレル様念願デ御座イマス

オ 橋ハ何かさうアハルカ

橋 橋ハ何かさうアハルカ
右様が十月事件以来事件ニ参加シタ契機ハ私カラ
ノテ自分カラ遠入アタノテハアリマセン其ノ迄大串上テ四
マス

裁判長ハ并護士側ニ向ヒ何カ聞クゾトハナクカト訊ミタルモ

4
1
2
澤作年護士ハ一番最後ニシテ答ヘテ出ルハ亀少
糸護士之ヲテ大分喉モ痺メテ居ル様デスカラト打切
護ヲ皆ハ裁新長モ之ヲ厄毎ニ対シテハ一應終リ之回
ハ林ヲ訊問スルカト云テ卒后ニ時ニ分閉廷シタリ
右
及申(通)報候也

特高秘第四九一七號

昭和八年

十月十四日

警視總監 藤 沼 庄 平

内務大臣 山本 達 雄 殿
各 廳 亦 知 長 友 殿

五二五事件 民音 偽 弄 係 者

公報 狀 說 一 件 (第九報)

東京地方支那公報之於ケル標記第九回公報狀說之記
通

記

一日時 十月十日

自午前九時至五時

一坊水 系回之合也

九回

一、大野長台

一、俵判格事台 (古北格事台)

一、年役人 (本日出番者)

栗原 孫口 川井 志松 星聖 石川 多志 遠藤 木和

池田 瑞 杉浦 宝 龜山 松木 花井 江橋 菱沼 光井 菱岡

赤川 中島 極岡 深作 (以上二十一名)

一、被差人 台

一、傍聴人

特別傍聴人 二十人

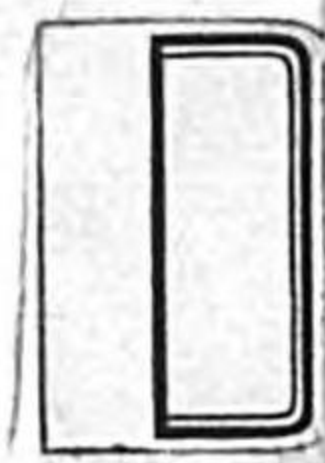
一般 〃 四十六人

家族近親者 一四人

一、公判状況

一、年役人及新卒者記名ハ再延命ニ入疑ス

二、大野長台ハ俵判格事ハ年未及者三分入延着命ス



3. 令七が報告合部入延し引張キ傍磁人ノ入延ヲ許ス

4. 令八が文部省ハ公判長短ヲ直スルヤ弊頭深化年復士

起千ヲ波瀾ニ十五ヶ所ナリ内ニ十ヶ所ニ一四九通ノ感歎

嘆息書ニ付合主文ヲ引張者五ヶ所ノ外ハ近ク追送ス

ルト述ベテ提出シ更ニ改訂案呈置所一五八八通ノ合致

耶所却村松村ノ三八通ヲ合様提出シタリ

5. 更ニ今年復士ハ嘆息書ヲ交理セサル旨ノ引張者主復引

ノ決議ニ非シテ新案ニ嘆息書ヲ交付スルカ如何ヲ書イタリ

テ和ノ更ニ博山懇會が来ルノテスカ如何ヲセリカ即更ニ

飛ハマスカレト依シタルニ神垣文部省ハ一〇直シイ交付マ

スレト的答ヲ其ヘタリ

6. 次ノ三石川年復士ハ本亦区一四干四百通及改訂案

久慈縣警察本部ヨリ博山懇會ニテ答ルト提出シタリ

尚且在座ノ筋張女工途中ヨリ一代表中村米松氏一請

報告ト署名シアルヲ提出可といハ居不タル之ヲ預リ置シ
ノ文判也ノ言質ヲ得テ提出シタリ

又文判也ハ橋本親ノ家弟ハ妹婿ニシテ刻執工頭格タル被
告林正三ヲ呼出シ親官ニ移リタルカ被告林ハ極メテ低聲ニ

テ陳述ヲ爲シ合十時五十分少憩ニ入ル
又合十時十分發議引續キ林ノ高理ヲ進メタルカ合二十

二分至リ被告等ニ移ケル矢次正三ハ從員血ノ爲メ怒
意ニ擁セリ退場シ合十一時五十分一時召ノ休憩ニ移ル

又午後一時五分再訊林正三ノ訊官ヲ續キ合二時五十分被
告ノ高理ヲ終了矣廷シタリ

10 次回ハ来月十九日午九時ヨリ矢次正三、横須賀
若久雄、堀五百枝、大貫清幹、一順序ニテ高理ノ著
二 高理ノ著

又 被告林ヲ訊官スルカ被告ハ事件ニ付テハ先述ニテ控事カ

述へられし夕通り百透にハナイカ

被(林)百透アリヨシ

才 科ハナイカ

被 アリヨシ

才

家庭状況ハ殺害即審テハ和ノ女ハ和ノ和ヲ罷業無シヤ
ワテ居リマシカハ故三十四年死ニシ母キヨハ姉ヤスト坊
ノ和ノ和モ之居リマシ 妻ウメ者三十八年七男坊十四
年二男良右者三十五年三男審司者八年七女さと者六
年四男政者四年七人養シテ妻ハ橋幸三ツリノ妹
テ兄一人弟三人兄ハ東京独乙和ノ女を輸入者ウメ
弟ハ枝河マ罷業無シトテ居リマシト云ツテアルカ大俵ウ
カ

被 ぎ様アスカ臨場ハ大正五年アス弟ノ罷業無シ今ハ坊ハ
ハ妻ウテ居リマシ

大 瑛子ハ何ウカ

大 被 作理イラセシ

大 學ヲハ予者ヲハ明治四十一年三月多江中学卒業令

大 年四月東京美術学校西洋画科ニ入学大正六年三月

大 卒業トアルガ昌遠ナイカ

大 昌遠ヒアリラセシ

大 経テハ予者ヲハ橘孝三ノリノ栽培ニ於テ栽培ニ従事スル

大 傍ヲ私立大東高等女学校令好文芸科女学校令私

大 立所府高等女学校ノ講師ニ並ビテ口説士ノ業ヲシテ居

大 女ノハ昌遠ナイカ

大 昌遠ヒアリラセシ

大 被 被者ハ何ウ云フ家庭教育ニ欠ケタカ

大 被 私人組織立ツタ家庭教師何ト云フ様ナモノヲ教育ハ受ケテ

大 被 也一被之云フ家庭ノ要因年ト云フモノハ幼少ノ時代ニ

ハ其親祖母一人是二人弟三人ヲ母堂イマシタ父ノ性格
ハ飛常之石頑強ナル性徳ヲ又合情心ニ富ムテ居リ
マシタ父ハ富河ヲ施療シテ事ヲヤリマシタ高養巻ノ人ヲ
祖母ハ確リシタ人デシタガ克ク養巻ヲ忠サシマシタ
母ハ何時代ノ女性ノ典型ニ柔順デシタ勿論博イ学問
ハナカワカカ也ノ博イ人デシタ
兄弟ハ余リ記憶ハナイガ飛常ノ仲ガヨカウシキ未カ喧嘩ヲ
シタトハアリマセン 歴志ヲヤリテ居リマシタカラ是等ヤト
其本人等モ居リ何チカト云ハルヲ千カレト云フ家祖テ
私ハ母ノ性徳ヲ享ケテ居ルト思ヒマス父ハ養育ニ任テ居
ル者ヘテ居リ素リ忠實中心ニ家ヲ殊ニ養育勅語ヲ
中心トシテ教育サシマシタ
私ガ七才位ト思ヒマスガ父ハ私ニ養育勅語ノ暗記ヲサセマシタ
是ノ学友等ト毎月一回佐養有勅語會ト云フ様ナモノアリ

私が暗誦して文や見か請家ウシテ居るコトヲ三大路トカ
船日ニハ必知奉ノ旨ニ教有初語ノ軸ヲ掛ケテ生ノ事テ改
漢シテ居るコトヲ見ハおノ中ノ漢字教員田先生ニ見ヒコ
クキマシカ私ハ近所ノ私テ漢字ヲ習ヒコトハ最休業ニハ午
前下ニ始メテ勉強ハ強ヒラレモ居ヤ恒節等ハ教員上
直シクテイト云フノテ殆ト見タストハアリ迄ニ夫レシテ見
ルノニ苦心シタモノテスコトヲ云フレヤ社会ニ當リ純粋無
クシ上學ノコトヲ云フレハ上層ニ當リテノ旨遠クテ此
コトヲテ猶イテ仕舞フト云フ様ト性格テレタ

被 下

小島秋成ニハ何ウ云フ志望ヲ持ツテ居タカ
唯漢然ト偉イ人ニナリタイト云フ丈テ高學科ノ時
ニハ軍人ニナリタイト云フ考ヘモアリマシタ又私ハ一軍カ
卒業迄ハ何日モ志望テアリマシタ

大

中學時代ニ在ケル志望ハ

被

中、第一、二年、の如く、軍人として、志望をアリマシタ
共、シハ、学校ニ、義務教育ト云フノ、カ、アツタノ、テ、アル、三、四年、位
ニ、ナツテ、軍人ノ、生活ハ、単純、ナルト、考ヘ、シ、何、ノ、考ヘ、モ、在
リ、セ、ン、ガ、五年、位、綴、書キ、エ、ナ、ロ、ウ、ト、云フ、考、ガ、起キ、マシタ、共、
シ、ハ、自分ノ、性、情、力、ヲ、云ツテ、自分ノ、互、分ノ、綴、カ、ロ、ウ、ト、考ヘ、マ
シタ、私ハ、ベース、ボール、又、テニス、等ニ、熱、中、ト、シテ、学科ハ、才、尚
守、エ、ナ、リ、又、是、カ、死、ニ、テ、勉強、ノ、監督、ガ、下、ナ、リ、卒業、ノ、時、ノ、年
終、ハ、終、リ、ノ、方、カ、ラ、一、方、ニ、近、イ、概、十、部、ヲ、シ、タ、

被 大

私ハ、進、歩、力、ヲ、得、タ、為、イ、モ、ハ、建、康、ノ、身、ニ、志、強、ノ、精、神、ト、テ、ア
リ、エ、ス、学科、ヲ、ハ、英語、ニ、ハ、お、ト、ノ、困、リ、自分、ノ、分、ヲ、ア、イ、エ、ト、ハ、橋
ニ、書、イ、テ、賣、ヒ、代、表、失、何、モ、分、ラ、ス、故、意、ト、ノ、ハ、同、意、ヲ、シ、タ、
美術、学校、卒業、生、兄弟、お、テ、系、性、ニ、ナ、ツ、タ、理、由、
私ハ、自分、ノ、志、望、マシ、タ、エ、共、ヲ、延、バ、シ、テ、リ、キ、タイ、ト、思、ヒ、美術
学校、ニ、這、入、リ、マシ、タ、ガ、志、望、ノ、美術、界、ハ、人、多、ク、苦、ハ、シ、ク、ナ、イ

ト考へ先ヅ否性ニテ口ウト思ツタノテアリラス

橋ト云ヒ以テ多ク強シクノ旨旨強強事業ニ付テハ橋

附述ト合様外ス

合様アス

本件書出ノ強生ニ付テモ橋ト合様外ス

合様アス

中途テ退強シク者及キノ理内モ橋合様外ス

合様アス

本件ハ強強計強ニ付テモ退ヒナイネ

退ヒアリキセン

計強ニ差カスルニ付テ事情ハ

昭和三年十月ニ付テ強強ハ本強シク五年一月六金

解禁ノ為メノ強強物ハ暴強シ何ヲ去クテモ二車三又

テ一方強メテ今ハテラノ強ハ大シニ減ラナイ強ニ合ハテ今ハ

御々トトモ未未ナイト云フニツキモ三ツキモリカクナクナクナク
テ老民三千萬ノ負債及利子負担全把料等支出ニ付
数字約ニ概説ヲ引用シ更ニ今物ノ収入状態ニ付説キ
改革ニ依リ米價ノ昂騰ハ却テ把料ノ暴騰ト有リ老
民ノ富裕一之ノ頓感ニ迫リタト謂シ老民前ノ調査表
並ニ米價ノ調査表ノ調査表ニ依リ今物ノ収入及利子負担
限外ニ有リ吾ハ丈ノ保障ハ所ケラシテ吾々老民ニ近頃ハ何
ウテアルカ生キラレハ生キヨ死又ナラ死不トハ合リ難ク自由
ノ項イタモテアル

新博我ノ或ホテ彼場カヲ著ニ種違更カ来テ何モテ
ノテ米價ニ紙ヲ貼リ附ケ又家族カアルノニ米價ノお印
ヲ印ワテ仕着ク夕遂ニ彼ハ繩ニ掛テラレタ自分テ作ツタ米

か自分ヲ食ハナイノコトヲスレバ、おノコ自分ノ縄カ掛ルコト
云フノテアル也。モウコト事ハ珍クシクハナイ大根ヤ馬糞草ハ
上等ヲ食ハシ生馬ノ食フ糞カ食ハナケレバコト云フテ
居ルト欠食史書ノ状提ニ作橋ノ後ト合極詳述シ或
高直ガ至性ハ御カナイカラ食ハナイト云フガ食ハナイカラ
御カナイノテアル云ハ、後増叙ニ止マラズ金玉約状提ヲ予之
ノ玉氏ニ何ン新着テ其ヘルカ其ノ由ニ及ル状態テアルコト性
ハ、款ハ至性ヲ骨ト皮トニ瘦セ、視力ガ衰ヘテ夕方ニナルト
目ノ見ヘナイモノカサラスアル

極者ニ掛ルハ死ニテカク掛ルノテアル也ノ街路カ海ヘテ其
暗テアルガ云ハ一月一和あり三或ノ負担カ拂ヘナイカラ
テアルサウレテ一方養工銀ノリノ延滞日歩ヲ拂ハナケルハ
十ラシ養工銀ノハ或ノ延滞日歩ヲ以テ何ウレシカ其ノ
目録テハナイ云コト引又者ハ中絶希勢ハ何ウカ

新ハ大衆黨ノ時見爲ニ来テ九折ノ上カヲ獲ル事ヲ見タ
時ニ三ニ十年ハ掛ルト思フカ十年ヲ出テ不レテ界物ノ
大衆黨ニツクク氏ノ政黨カ若クハ被聲ト困果罪
俾カナイテ三ハ極外ニ至ルカハ状思フ事ハルト私ハ希
勸ノ怒不案ヲ嘆ハレシ思フ

お運むカノ下ニ在途ナレ又ニ在途カ支那ノ下ニ在途ナレ
居ルノテアル者悲ルキハ政界ノ腐敗テアル事カト云フ
此ヲ遠柔ヲ蹂躙シテ仕着クク之ハ吾民ニ惡イト云フカ
吾民ハ才後カ言イテ吾民池ノ魚ニ合様テ試ノ魚ヲ釣ル
モノカ惡イカ釣ルル魚ガ惡イカ夫レハ私ノ言フ必要ハナイ
之ハ吾民ノ選ニ在テハテク議會ニ吾民ノ議會ハナイ
之ニ改革政教ハ若クハ自他ノ破壊ニ可憐ナル小字也之重
道ニ犯シタルテアル次キニ要路大友ノ終獄事件ヲ痛罵
レ在也ノ餓饉状態ヲ痛じ政界特權階級カ権力ニ至

何
又

歳ヲ生墜シ遂ニ八五防ヲ元存カスニ至ラタト論じトル
買ニ付合橋橋ト合橋ノ論駁ヲ為シ黙以候ハ以候ノ
才茂ヲ蒙リタモテアリト以候ノ大業ハ農民ニ依
リ建設サレタモテアル

上層特権階級ノ腐敗墜落農村ノ新状ヲ何ウスルカ
ニ付テテ本年八月日本青年報ニ改造ノ會合ガアルト
云フコト亦謂テ付事件ノアルト云フコト七年二月三日ノ
血闘事件件ノ如ク七年五月ノ下旬東京ニ墜テ橋
ト二人ノ死ヲシマシタ農村窮乏ノ状態ニ付テ橋ハ
農村ハ日本ノ根幹ナリ
海峽事變ト云ヒ内外ノ世ニ非常時ナリ
(以下省略)

其農民ヲ救フニハ非常手段ヲ執ラナケレバナラン、今ハ既
ニ時ノ尚題ダト思フト云フノデ私モ之ニ合意シ今度
霞ヶ浦デ中村中尉ト會フガ才芳ハ今後要御人會ノ
コトヲ全部ヤツテ異レト云ハレ私ハ建設ノ爲ノ破壊
ダト考ヘマシタ、自分ノ性格カラ云フト破壊等ト云
フコトハ合ハナイト思ヒマシタガ國家改造ノ爲ニ故
情民ノ爲トシテハ決シテ人後ニ譲テナイト考ヘテ居
リマシタ、私ハ橋ノ性格ハヨク知ツテ居ルノデ其時ハ
橋ノ説ニ從ヒ自分が這入ツタノハ七年四月十七日
塾生ノ實家ヲ捜シニ来タ時カラ這入りマシタ、
才トウノフ社會ヲ建設スル所ヘダツタカ、ソレモ橋ノ
説ト合振ノカ

被

左橋ノデス

時ニ午前十時五十二分少越ニ入ル

其ノ時ニ...

才 午前十時十五分再刑被告林ノ訃聞ヲ讀シ
之カラ具體的ノ犯罪ニツキテ肉久ガ昭和六年ノ三
月陸海軍、民間有志ノ新謂三月事件ニ干係ハ
アルカ

才 被 アリマセン
六年ノ十月頃ノ新謂十月事件ニハ橋、後藤ノ
云ツタノト合術カ

才 被 左橋デス
被告ハ事件ニ参加スル心算ダツタカ
アリマセン

才 被 其当時橋、後藤ノ云ツタ通り肉久ヲ尻ヲ参加スル
トハ云ハナカツタカ

才 被 左橋デス
昭和七年一月中旬頃古賀、中村ノ二人が愛仰塾

塾で一泊し茶話會ヲ催し函中尉ノ話ノ内容モ橋
ト同シカ

被 左折ノデス

才 昭和七年二月カラ三月ニカケテ小沼加井上ヲ菱垣ガ

団ヲ暗殺シテ所謂血盟團事件ノ干係ハ

被 アリマセシ

才 本件ノ襲撃ノ計画ニ参加シテ呉レトハ誰カラ話

ガアツタカ

被 橋カラデス

才 リレハ何日カ

被 参加シテ呉レトハ云ハナリガ四月十六日ニ話ガアリマシタ

才 菱垣塾デカ

被 左折ノデス

才 事件ノ内容ニツイテハ

被 十六日ニ古塚加来夕其活デシク

才 其好参加シ口ト云フ話アハナカツ外水

被 左折デス

才 麦仰望デ変電新ヲ襲撃スルハ橋ノ後集

ダト云フガ

被 分リマセン

才 其ノ変電新ノ話ハ何時聞イタカ

被 八川キリ記憶ハアリマセン

才 誰カラ聞イタカ

被 橋デス

才 何処デ聞イタカ

被 矢張り望ダラウト思ヒマス

才 計出ノ話ヲ聞イタ後カ

被 左折デス

才 昭和七年四月頃橋、後藤ト古賀中尉ヲ討向シテ

コトガアルカ

被 アリマス

才 南緯一ノナイカ

被 其美ハハツキリ記憶ハマセン

才 敵ツテカラ本件ノ襲撃ヲ出テ被告ニ話シテ

コトガアルノテハナイカ、アルカナイカノ記憶ハナイカ

被 ナイト思ヒマス

才 予審デハ被告ハ四月ノ三日頃飛段ヶ浦ノ古賀

カラ電報ガカリ橋ト後藤ガ行キ敵ツテ来テ

其晩望長室テ合見ノ歎末ヲ話シ内容ヲ聞イ

タハハ娘メテスト云ツテ本ルガ

被 ソレハ内違ヒテス、此事件ニハ橋ハ私ヲ入レ物ト

セズ後ツテ話ノ内容ハ話サナカッタラ、十六日

以弁一ハ、謀然トシテ居リマス、事件ニ甚ダシク
警視庁一デ「ヒント」ヲ喫ヘラレ想像シテ申シタコトガ
万成アルノデス

才
ソレデハナカツタトシテ置カウ、昭和七年四月二日頃ノ
晩、妻御塾ノ塾長室デ本件一襲撃参加ノ塾
生ヲ被告ガ接定シタト云フガ

被
致シマセン

才
佐伯等ノ相次モナカツタカ

被
アリマセン

才
予は嘗テハ、詳シク述ベテ居ルデハナイカ

被
ソレハ諍リデス

才
塙、矢吹、小室、温水、横須賀、妻田等ノ参加スル

被
コトニナツタノハ、尙屬ヒナイカ

被
尙屬ヒアリマセン

才 参加スルコトヲ何時知ツタカ

被 四月十六日ノ晩カト思ヒマス

才 誰カラ訊ク内イタカ

被 橋カラ内キマシヤ

才 橋ハ後藤ヲシテ橋川妻能ヲ訪内井セ照況、川街

等ニ話ヲ伝ヘサセタカ、四月ノ修ノ頃カ

被 内キマセン

才 橋ガ橋川ニ面合シテ話ヲシタコトハ

被 知りマセン

才 昭和七年下四月十六日ニ古賀ガ愛御堂ニ来タノハ

内邊ノイナイカ

被 内邊ヒアリマセン

才 古賀ニ面合シタノハ

被 橋ト橋ト後藤デス

才 其時古突ハトニテ託ヲシタカ

被 其時ノ託ハ後テ橋カラ周キマシタ

才 古突カラ直接周イタノテハナクイカ

被 左新ノデス

才 十六日ニ来タ時ニ古突ガ参加塾生ニ合ツタコトハ

周邊ノイナクカ

被 周邊ヒアリマセン

才 塾生ヲ見學子ノ名義ヲ達シテ引クト云フコトハ

被 周邊ヒアリマセン

才 四月十七日ニ橋ト一新ニ借家ヲサガス爲ニ上京シタ

ガ其時ノ託ハ

被 斯ウイフ訣ダカラ一新ニ引カウト云フ事デシタ

才 十七日ニ東京ニ来テ借家捜シヲシテ雜司ヶ谷ヲ

捜シタニタネ

才 被
左柄デス

借家ヲ捜シテカラ十九日ニ橋ト一新ニ要仰望ニ依リ
途中土浦ノ山水園ハ古突中ヲ討問ニ話シテ
内幕ハ橋ト合柄ノカキ

被
左柄デス

塾ニ依ツテカラ後舞ニ話シテカ
左柄デス

才
十七日以後ハ本件ニ参加スルト云ク意思ヲ以

被
左柄デス

此時被告席ニ居タル矢吹正吾ハ腦貧血ヲ起シ
退廷ス時二年系十一時三十二分

才
快行ノ時機ハ

被
五月ノ二十日前後ダト思ハテ居リマシキ

才 橋カラ肉ノ夕ノカ

被 左新ノデス

才 四月二十一日橋ト後蘇ガ山ノ水割ニ古突、中ノおヲ討

向トテ飯ヲテカラ肉ノ夕カ甚熱撃ノ斗出ハ

橋ノ速バタ通り向違ナリカ

被 肉違ナリマセン

才 自標ハ首相官邸、内大臣官邸、警視庁、三菱銀

行、改友會本部、テ変電所ハ委仰整テ支持

テ武蔵ハ手榴彈一券銃デヤルト云フガ甚熱撃

才 恠ハ

被 外リマセン

才 トニテユトヲ肉ノ夕カ

被 手榴彈デハ只音ヲ立テ一カ背迫スル丈カト思ヒ

才 拳銃ノドウスルカ

被 護身用デ脅ス位デシタ

才 脅カス位カ復身用トスレバ人ヲ殺傷スルノデハナイカ

被 リレ迄ハ考ヘマセン

才 今ノ極ニ音ヲ立テタ丈デ其結果ハドウナルト思ツ

タカ

被 衝動ヲ喫ヘル事一が出来ルト思ヒマシタ

才 音位デ衝動ヲ喫ヘルミトハ出来ナイヨヤナイカ

被 新肉デ異外等ヲ判セバアルト思ヒマシタ

才 何時カ井上ノ内弁一デ音ヲ立テタガ何ニモナラナ

カツタデハナイカ

被 リレハ知リマセン

才 襲撃スルノハ建物ヲ破壊シ拳銃デ首相ヲ殺スト

被 ヲ警視庁其他デモ人ヲ殺傷スルトハ考ヘナカツタカ

被 場合ニヨリテハアルカモ知シナイト思ヒマシタ

才 期カニ廿ウタト云ク考(ハナイ)ガ場合ニ依リテハアルカク

判ラナイト推測シタカ

左新ノデス

才 此計素ハ誰カ殺業シタト思ワカ

被 吉突中耐アタリト想像シタ

才 変電社ノ一襲撃手ハ誰カ

被 ソレモ吉突中耐外ト思ヒマシタ

才 甚多射造リウ思ワキタカ

被 左新ノデハ一法イマス

才 橋ガ自分外トハ肉イテ飛チイガ

被 肉イテ飛リマセン

才 ニヤ一日ノ暗橋、後糸ノ三糸ガ内容ヲ参加スル塗生

二話シタネ

被 左新ノデス

才 妻電新ノノ殺撃ノ相談ハ橋ノ述ベテ通りカ

被 左新ノテス

才 妻郷望ノ耕耨ニ勸メタカ

被 知ウテ死リマスガ勸メマセン

才 本件ニハ西田稔ヲ暗殺スルノモ念々シテ尻ント

向イタノハ所ノ好カ

被 四月五日ハカト思ヒマスガ予審ノ通りテス

十 誰ニ向イタカ

被 橋ノテス

才 内容ハ

被 西田ハ邪慮スルカラ除クナケレバナラント云ク話ゾ

シテ

才 被告モ替裁カ

被 左新ノテス

妻電新ノノ殺撃ノ相談ハ橋ノ述ベテ通りカ
左新ノテス
妻郷望ノ耕耨ニ勸メタカ
知ウテ死リマスガ勸メマセン
本件ニハ西田稔ヲ暗殺スルノモ念々シテ尻ント
向イタノハ所ノ好カ
四月五日ハカト思ヒマスガ予審ノ通りテス
誰ニ向イタカ
橋ノテス
内容ハ
西田ハ邪慮スルカラ除クナケレバナラント云ク話ゾ
シテ
被告モ替裁カ
左新ノテス

才 四月二十五日ニ東部電力変電所ヲ見學シタリ
其時ノ令リノ着ハ橋ノ速ベク通リカ
被 左ノ如クデス

才 四月二十五日橋、後藤加山、水岡ニ古突、中おヲ訪問
止、彼ツカラ、課ノ内務ヲ問フニ
被 左ノ如クデス

才 彼ツカラ、被服整斗、出ノ准備、一ノ為、参加、塾生
ノ上、尔、後藤ヲ滿洲ニマル、ノ、問、ノ、タカ
被 和ハ、平、審、テ、ハ、申、上、マ、ラ、タ、ガ、相、談、ハ、夏、ケ、ニ、セ、ン

才 後藤が奉航ヲ滿洲カラ買入レルト相談がアツタ
ト平審テハ、ノ、ウ、テ、展、ル、カ
被 同邊ノ、ノ、デ、ス

才 四月二十八日ニ上ル、ノ、ハ、橋、ノ、速、ベク、通、リ、カ
被 左ノ如クデス

才
二十八日、腰ハ精一ノ処ニ泊リテトニテ誤ガアツタカ
使
要ノ場合ハ精一ノ家デ會合シ新ト云ツタカ
私ハ序ヘタマケテス

才
時ニ午前十時五十分ノ一時間ノ休憩ニ入ル、午後一時
再開シ精一ノ訊問ハ終リ

才
昭和七年四月三日ニ被告ハ橋ト後藤ノ三人ガ難
所々界テ里ノ名義カト會ワタノハ間邊ノイナリカ
内邊ヒアリマセン

才
其時ノ訊ノ内容ハ橋ノ述べタ通りカ
左物テス

才
其時ハ所稱ト一新ニ林一ノ家ニ泊リ橋ハ取
ツタノカ
左物テス

才
四月三日日ニ飯田橋駅ヘ去突、申おッ迎ヒニ行ツタカ

被

川キマシタ

リシカラ林正一ノ家へ達シテ行キ命令ニ加ハリ古契カラ
妻取リ夕金五多系ヲ橋ニ懸シ夕カ又其後ノ内容ハ
橋ノ述之夕通りカ

左板デス

被

三十四ノ命令一後ニ後藤カ橋州ニリリニ際シ
勅井
参議ニ宛テテ紹介状ヲ世尊ワ夕カ

右板デス

被

甚ノ晩ハ林方ニ泊リ夕カ

詢リマシタ

被

昭和七年一月一日ノ朝ハ橋カ矢吹大貫、橋、小
室ノ四人ヲ達シテ妻々ノテ上野迄出迎ヒニ介リ夕
カ

カ

被

右板デス

才 ソレカラ後藤が加ウノ日本青年館デ會合ラタカ
被 左様デス
才 判部ノシタ者ヤ會合ノ内容ハ橋ノ述ベタ通りカ
被 左様デス

(以下次義小)

才 堀川秀雄中四人ノ者カ本件ニ参加スルコトカ今夕人
何日カ

七 其ノ時初メテス

才 一日ノ晩右尋カ滿洲へ出発シタネ其ノ時神告カ見
送ラシタ其ノ晩ハ日本青年館ニ泊ツタノカネ

七 右様テス

才 五月二日ノ行動ハ朝温水ヲ訪向シテ日本青年
館ニ連シテ行キ話ヲシタネ

七 右様テス

才 夫シカラ青年館ヲ引上ケテ午後五時頃發行塾ニ
歸ツタノカネ 歸ツテカラ横須賀ト會フテ話シタ
内容ハ

七 別ニ話ハナクカ春日田カ訪向シタト云フ丈ノ話テシタ

才 五月三日横須賀員ヲ連シテ上京スル様ニナラタ事情ハ

七 朝敷工ニ行クト橋ガ之ヲ連シテ行クニ是ト云フノゾ
連シテ来コシタ

六 午後一時頃上京シ横須賀ヲ何処ニ置クタカ

七 小室ノ処ニ置キコシタ

六 五月四日ニハ何ウコシタカ

七 午之町中ノ野ノ圖書館ニ行キ電氣ヲ圖ズル事ヲ
誘ニ行キコシタカアリニカシテコシタ

六 圖書館カラ飯ル際ニ松坂屋ニ是のツタカ

七 午振彈ヲ取ル際ノタオル、ハシカ午ヲ察ヒニ行キ
コシタ

六 去シテ持シテ神田神保町ノ靴屋ニ行キコシタ

七 トランクスヲ買ヒニ行キコシタ

六 昭和七年三月三日ノ行動ハ、神保町ニ行キ参
謀本部ノ地圖ヲ買シタカ

ヒ 変電所 薩長線 平ノ倉 ヌニ組 四七ニシタ

オ 午前九時頃 高湯水 横須賀 加来ノハ 何ニシニ来タ
ノカ

ヒ 高ハ住所カ 変ツタニトヤ 変電所ヲ 見ニ行ツテ来
タニトテ 湯水ハ 金ガナリト云ツテ来ルニ 横須賀ハ
用事ハ 無カツタノデス

オ 高ノ話ハ

ヒ 田端ニハ 鬼谷川 変電所ト 東京 変電所トニツアル
目黒ハ 小サリカ 目白ハ 大キリト云フ 話デシメ
其時 地圖ヲヤツタカ

ヒ 今ケテ ヤリニシタ

オ 午後三時頃 下十條ニ至。 田代平ニ行ツタノハ
六日ニ 手榴彈ヲ 取ルノニ 魔胡付カナイ 様ニ 場所
ヲ 見ニ行キニシタ

其ノ時 地圖ヲヤツタカ

オ 其ノ取りニ日比各ノ圖書館ニ行ツタノハ

ヒ 電多ノ研究ニ行ツタガナカマタノテス

オ 其ノ後林正一ノ家ニ泊ソタシタネ

ヒ 左様デス

オ 五月十日ノ行動ハ

ヒ 午前十時頃、林正一ヲ出テ田代方ヘ行キマシタ

オ 手榴彈ハ受取ツタカ

ヒ 受取りマシタ一個死タオルニ包ミテ六個ノ手榴彈

ヲカバンニ動かナク様ニ入レマシタ 最初ニ手榴彈ノ

使用方法ヲ教ヘマシマシタ 先ヅ安全ヲ外シ去シテ投

ゲタ場合ハ三十米位迄ハ危険ガカ去レ以上ニ遠シテ居

ルニトモマテ教ハリマシタ

オ 林正一ノ家ニ泊リ靴ヲ何ウマシタカ

ヒ 其ノ後ニ階上ノ座ノ間ニ置キマシタ

オ 午尾橋か杉浦ト春田ヲ連シテ上京シタカ
杉浦カ上
京ニシタカ理由ハ橋ノ近バタ通リカ

ヒ 左様デス

オ 橋ニハ午尾彈ヲ受取ツタメトテ話シタカ

其ノ話ハ橋ノ近バタ通リカ

ヒ 左様デス

オ 五月七日ノ行動ハ林正一方デ會合シ出席シ者協

議ノ内容ハ橋ノ近バタ通リカ

ヒ 左様デス

オ 杉浦ハ使ニ出テ出席シテカワタトシラウガサウカ

ヒ 左様デス

オ 會合ノ際午尾彈ノ効カニ付テ話シタカ其ノ晩ハ林

方ニ泊ツタノカ

ヒ 左様デス

オ 五月八日ノ行動ハ朝橘が上京して林正一ノ力ニ
まり午榴彈ノ効力ニ付テ試験シタトテ話シタカ内
容ハ橘ニ述ベタ通りカ

ヒ 左様デス

オ 午前十時頃西川ヲ訪向シタネ其ノ話ハ

ヒ 夫しも橘カ申シタ通りデス

オ 林正一ノ方ヲ塾生ト會合シ出席者内各々ハ橘ト

全様カ

ヒ 左様デス

オ 橘ヤ杉浦ハ段々ツタカネ去シテ被ケレハ

ヒ 橘ハ午後四時頃ノ汽車ニテ段々杉浦ハ終ッテカラ段

ヒ 々リニシタ 杉浦林方ニ泊リマシタ

オ 五月九日ノ行動ハ右様カ満洲カラ段々ツタノテ迎ヒニ

行キニ越ニ去リツタガ其ノ時ノ話ハ橘ト全様カ

ヒ 左様デス

オ 右様ノ翁泊所ハ何処ト云フコトニ定メタカ

ヒ 池ノ端ノ八分代館ト云フコトニ定メタカ

オ 交渉ニシテカ

ヒ 良カロウト云フコトヲ話シタマヒテ

オ 右様ヲ八分代館ニ連シテ行ツタカ

ヒ 連シテ行キマシタ

オ 被告ハ林カニ泊ツタカ

ヒ 左様デス

オ 五月十日ノ行動ハ午前九時頃八分代館ニ行ツテ何

ヲシタカ

ヒ 右様君が疲シタト思ヒ行キマシタ

オ 九時五十分ヨリ野ニ出迎ニ行ツタカ

ヒ 左様デス

オ 午後六時頃、青年館デ會合ころタガ其ノ内全右ハ橘
ト全梯カ
ヒ 左梯デス
オ 橘、横須賀ハ飯ツタカ
ヒ 飯リマニタ其ノ他ハ全部一青年館ニ泊リマニタ
オ 五月十日ノ行動ハ午前十時頃カラ會合ころタネ
ヒ 左梯デス
オ 夫シカラ何ウニタ
ヒ 橘ト山等ヲ代議士ノ宅ヘ行キ紹介状ヲ貰ヒマニタ
オ 夫シカラ重要ヲ行動ハナイネ
ヒ アリマセン
オ 林方ニ泊ツタノカ
ヒ 左梯デス
オ 五月十一日ノ行動ハ

ヒ 午前申家ヲ出テ十一時頃、拓務大臣官邸ニ行キ橘
カ結束シテ置、且々紹介状ヲ貰ヒ薩摩ノ原ニ行キ西
川ト令シ虎ノ内ニ行キ夜ハ九時頃橘カ滿洲ニ行クノ
ヲ見送りニシタ

オ 見送ッ夕后上野山下ノ蕎麦屋デ會合シタ、其
ノ内容ハ右ノ如ク述ベ夕通リカ

ヒ 左様デス

オ 其ノ時杉浦カ出席シテ居ルガ何ノタメカ

ヒ 別ニ譯ハアリマセン

オ 被告ハ橘カヲ十四日ニ發、郷塾デ堀川ニ會ヒ話ヲ伝
ヘテ吳シト云ワシタノハ何処カ

ヒ 東京驛ニデス

オ 會合ノ時シヤナクカ

ヒ ハツキリ致マセン

オ 何うぞつエトヲ話セトちツタカ

ヒ 向フへ行ツテ話セバ令ルトちツタカデシタガ参加コナク

オ 芳、良イトちツエトダト思ヒエミタ

オ 其ノ晩ハ林ノ処ニ泊ツタカ

ヒ 左様デス

オ 五月十三日ノ行働ハ

ヒ 午前九時頃矢吹大貴ト圖書館ニ行キ右様君ニ
會ヒエシタ

オ 其ノ時ノ話ノ内容ハ右様ノ通りカ

ヒ 左様デス

オ 午後四時頃上野迄見送り陸軍省へ行ツタネ

ヒ 橋ノ著書ヲ大部程持ツテ行キエシタ

オ 其ノ晩右様ト會ヒツタカ、内容ハ右様ノ通りカ

ヒ 左様デス

オ 飯リニ上野ノ蕎麥屋デ右尋トノ話モアノ通りカ
 ヒ 左様デス
 オ 其ノ晩ハ林正一ノ処ニ泊ラタネ
 ヒ 左様デス
 オ 五月十四日ノ行動ハ
 ヒ 手榴彈ヲ右尋ニ渡し奉銀ノ使用法ヲ聞キマシタ
 オ 夫レハ右尋ガ述べタト合様カ
 ヒ 左様デス
 オ 其ノ日池松ニ会ワタネ
 ヒ 私ガ出様トエル時ニ来マシタ
 オ 何コレニ来タカ
 ヒ 右尋君ノ住所ヲ尋ネルタメト右尋君ニ出迎ヘテ
 シト頼ミニ来タノデス
 オ 午前十時頃ニ被告ハ急御馳至ニ飯ラタネ

其ノ時ニ被告ハ急御馳至ニ飯ラタネ

其ノ時ハ拳一錠ヲ持ツテ行ツタノダネ

七 左様デス

オ 其ノ晩ハ

七 堀川君、照沼君が来タノデ討取ノ内答ヲ話シ堀

川君ニハ参加シナウトモ良イト話シマシタ川君の君は

ハ西田ヲヤツテ貰フシタイト川君の君ハ出立ニル時尙ヲ折

合セ其ノ事ヲ伝身君ニ伝ヘテ出シト云ツテ叔母ヲ出シマ

シタ堀川君モ的り十時頃馬澤モ的り夫シカラヒス

トルノ傳用方格ヲ教ヘ夫シヲ川君ニ渡シ短刀ハ要

ラナウト云ツテ度シマセニデシタ人金ガナイト云ツテ私ガ

十内ト堀川君ガ八内トヲ川君ニヤリマシタ

オ 夫シカラ

七 別ニ何ニモアリマセン

オ 川君ヲニヤラセルノハ龍襲撃ノ一部ヲト思ハシマカ

七
別ニ何ニモ考クテ居リマセン
其ノ晩ハ愛御熟ニ泊ツタシメテ
左様デス

六
五月十三日ハ川島が午前五時頃
起キテ行クト云ハタカ
被告ハ何ヲシテ居タカ
事業ヲサツテ居リマシタ

五
海軍行々メノハ何ウシテ分ツメカ
松浦ヲ土浦ニラゲオウ
岸キニヤリマストニ時向位
テ的リ

四
コシタガ号外ヲ持ツテ
ぬリ見出シニハ陸海軍人ハ首相
官邸内大臣官邸ヲ爆弾ヲ以テ襲撃
シ首相ハ重

三
傷ダトアリマシタ
変電所ノ事ハ

二
書イテアリマセン
テシタ
其ノ時計馬ハ海軍行サシタト
思ハタカ

ハツト思ヒマシタ

ハツト思フタトチアノハ

一言ニコテまぐバミダノ毒ダトトチフ様ニ思ヒマシタ夫

シハ警視テデモ申シマシタ

ハツト思フタトチフノハ甘クヤツタナト思フノデハナイカ

サウハ思ヒマセン

ヤリ過ギタト思フタカ

サウモ思ヒマセン

変電所ノ襲撃ハ何日知シタカ

警視テニ来テカウ知リマシタ

何ニナ事情カウ逮捕サシタカ

十六日ノ午前十時迄逮捕サシマシタ

兇徒見エタト思フタカ

左様思ヒマシタ

オ 予筆由決是書は二書はくテアルノハ尙違ナク不
ヒ 尙違ヒズリコセン

オ 現在ノ考ヘム

ヒ 今ヤ正ニ内外共ニ多事ナルトハ有史以來カツテ見
ナク処ノ重大ナル時局ニ当面ニタト解シマス尙モ曰来ク
タルモノ軍人デアロウト教育家等ヲ尙ハズ重大ナル時局
ニ鑑ミ一尋因結シ三千年来ノ皇國日本ヲ永遠ニ
天壤無念ナランコトヲ至ニテ居ルノデアリマス事係ニ付テ
ハヤリ方ハ諺ヲテ居タト思フカ当時ハ時利ヲ失シテハ
クケテウト考ヘタノデアリマスカ今釋ニ考ルシバ諺リタツ
タト思ヒマス何シニテモ因結ヲ犯スルトハ皇正ナ御処
断ヲ才願ヒコマス又今腕ノ執ヲ裁ニハ感激感謝ニル
者デ御座ルマ

(林正マテ終)

裁判長ハ弁護人側ニ何モ聞クコトハナクカト質ミタル
ニ深作年ゴトハ相談ノ上后テ才願ミタイト答ヘタルニ
依リ林正三ノ訊問ハ之テ一先ツ終了ミタルニ依リ
左田ハ矢吹横須賀塙大野ノ順序ニテ審理
スル旨ヲ述べ午后二時五分閉廷ヲ宣ス
右及申(通)報候也

特高秘第五。二五號

昭和八年十月十九日

警視總監藤沼庄



內務大臣山本達雄

各廳府縣長官殿

五一五事件民間側公判狀況ニ關スル件

(第十報)

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記
第十四回公判ハ本日午前九時八分開廷午後三時五
十分閉廷セルガ其ノ狀況左記ノ如クニシテ事故十

記



一日 時

十月十九日

自午前九時八分
至午後三時五十分

一場 所

前報全断

一係判檢事

右 全

一被告人

右 全

一辯護人

(木目出席者)

稻川龍雄、池田謙太郎、岩松孝雄、花井忠、

池田操、星野茂雄、若井孝太郎、龜山要、

柏木五百次郎、金石一雄、樫村廣史、川井金一郎、

栗原宰之助、前川盈一郎、深作貞治、藤沼光、

森田重次郎、關口公吉、遠藤榮三郎、石川涉、

一傍聽人

1. 一般傍聽人

五五名

2. 特別

九名

3. 家族

七名



一、特別傍聽人中、主として、

海軍大尉

生田乃木次

九州日報主筆

清水芳太郎

陸軍砲兵少佐

住吉

内務 属

南坊仁三郎

一、一般状況

被告人橘孝三郎以下十七名ハ押送自動車三台

ニ分乘午前八時十分構内仮監到着、法廷内外ニ

於ケル警戒其他從來通り

一、法廷内ノ状況

八年前八時五十分頃ヨリ各弁護人並ニ新聞記者

相前後シテ入廷、今九時裁判長以下判檢事、

今九時五十分各被告續テ傍聽人入廷着席ス

又、速記二名各被告ノ服装、又モ並ニ鉛筆ノ手交等

前報全断

3 開廷ニ先立テ深作辯護人起テ

1 茨城縣水戸市松島清作外七十六名

2 茨城縣那珂郡有志大曾根秀外百三名

3 今縣令郡山形村高林忠義外八十八名

4 今縣令久慈郡佐竹村小林甚太郎外三百四十一名

以上ノ如ク各被告ニ對スル減刑嘆願書ノ送附了

リ趣旨ハ何レモ從前今様ニ付御高覧シ御願ヒ致

シ度トテ廷下シテ裁判長ノ許ニ提出ス

4 本日ノ一撥傍聽人席ニハ市内半込區余丁所小學校

母の會ノ會員二十五名ノ團休傍聽アリ

6 開廷ト今時ニ被告矢吹正吾ノ事實審理ニ入リ午

前十時三十分終了ト共ニ裁判長八十五分間ノ休憩

シ宣ス

6年前十時五十分再開被告大貫明幹之對スル事
賓審理ニ入り午前十時五十分終了休憩トナ

午後一時六分再開被告高根興一ニ對スル事賓審
理ニ入り今一時五十分終了引續キ直子ニ被告横
須賀喜久雄ニ對スル審理ニ移リ午後二時二十五
分ニ到リ十五分間ノ休憩ト宣ス

8年後二時四十五分再開ト共ニ被告横須賀喜久
雄ノ訊問續行午後三時十五分終了引續キ直子
ニ被告塙五百枝ノ事賓審理ニ入り事件關係
當初ヨリ昭和七年五月九日迄ノ行動ヲ以テ一應
訊問ヲ打切リ午後三時五十分與事閉廷ス次回ハ
来ル十月二十一日午前十時ヨリ開廷引續キ被
告塙五百枝ニ對シ昭和七年五月十日以後ノ行

動ニ就キ訊問ノ豫定

一、公判ノ状況

(被告矢吹正吾ニ對スル事實審理ノ概要)

オ 夫レテハ是レカラ訊問スルガ一時間半位ハ大丈夫カ

ヒ ハイソウデス

オ エ合ガ悪ケレバ椅子カアルカラ掛ケ給ヘト起訴事實

ハ 檢事カラ述ブレタ夕通リダネ

ヒ ソウデス

オ デハ被告ノ身分ニ就テ訊ネルカトトテ

裁判長ハ調書ニ就リツ、被告ノ身分資産、産状、學歴

経歴ニ就キ順次讀ミ、聞カセツ、訊問スレバ被告ハ

殆ンド肯定シ引續キ本格的ノ審理ニ入ル

オ デハ入塾ノ動機ニ就テ訊ネルカトトシテ考テ入

ソウカ

昭和四年十月當時橋ノ後郷會支部ニ關係シテ
居タ庄司亀次ト云フ私ノ友人ウアリマスガ橋ノ董
陶シ受ケテ昭和四年ノ春歸村シテ来マシテ私
ニ支部設置方シ相談シマシタ

當時村ニハ何等ノ運動機關モ無カツタノテ私モ
夫レハ我々ノ最も望ム處デアルト云フテ早速準備
ニ取掛クウト云フ事ニナツテ一生懸命ニ十数名
ヲ集メテ昭和四年四月一日發會式ヲ舉ゲル事

ニナリ橋先生ヲ迎ヘテ講演シ御願シタノカ初メ
テテアリマシタソシテ私ハ先生ノ熱烈ナル意志ニ大
キニ感動サセラレマシタ會ノ趣旨ヤ目的ハ先生ノ
常ニ述ベラレテ居ル通りデアリマス

オ 入塾シタノハトウ云フ關係タツタカ
ヒ 出来ル丈ケ會ノ為メニ努力ハシテ居リマシタガト

コ
ウシテモ徹底シタク憾がアリマシタノテ入塾シテ先生
ノ御指導シ受クベク會ノ立場カラ昭和四年四月十
五日開塾ト今時ニ入塾致シマシタ塾デハ青年部
ノ一員デシタ

オ
青年部員トシテ事シシタカ

ヒ
先ニ先生カ述ベラレタ通り午前中ハ農業午後ハ學
科デシタ

オ
塾デハ橋カ述ベタ通り「大地主義、兄弟主義、勤勞
主義」ニ依ッテ訓練シ受ケテ居タノタネ

ヒ
ソウデス

オ
被害ハ豫審テハ最初ハ會ノ擴大ニ因ッテ社會ノ革
新運動シ志シテ居タカ後ニハ暴力行為ニ扱ルニ非
ラサレハ到底目的貫徹ハ覺東ナイト考ヘルニ到
ツタト述ベテ居ル様タカ其ノ通りタネ

ヒ ソウデス

オ 被告ハ十月事件ニモ關係カアツタノタネ

ヒ ソウデス

オ 其ノ程度ハ曩ニ摘カ述ベタ通りカネ

ヒ ソウデス

オ 被告ハ本件ノ襲撃ニ参加シタ事ハ間違ナイネ

ヒ 間違ヒアリマセン

オ 誰レカラ参加シ求メタレタ

ヒ 橋先生カラデス

オ 夫レハ何時頃

ヒ 昭和七年ノ三月下旬頃デス

オ 愛郷塾デダツタネ

ヒ ソウデス

オ 其ノ時ドンナ諾ガアツタ

ヒ 其ノ時ドンナ諾ガアツタ

先ツ目的シテ話サレドウレテモ直接行動ニ因ツテ
火蓋シ切ルヨリ外任方が無イトノ話デアリマシ
タソシテ我ニハ別動隊トシテ変電所襲撃シ計
画中必トノ事デアリマシタカ、具体的ナ事ハ聞キ
マセンデシタ
被害ハ豫審デハ四月ノ二三日頃ダツタト云ツテ居
ル様ダガネ

夫レハ三升ノ下旬カ真當デス

其ノ後二三日シテカラ又話ガアツタ相ダガ其ノ時ノ
話モ大体同ジ様ナ事カ

大体同ジ様ナ話デシタガ横須賀、温水、小室モ参
加シタガヨカロウトノ話ガアリマシテ其ノ時モ未ダ
具体的ナ話ハアリマセンデシタ、乍併我ニハ最初
カラ変電所襲撃ノ事ハ決ツテ居リマシタ

オ 参加塾生ハ橋カ述ベタ通りダネ

ヒ ソウテス

オ 昭和七年四月十六日海軍ノ各賀中尉カ愛郷塾
ニ尋ネテ来タネ

ヒ 参リマシタ

オ ドンナ話ガアツタ

ヒ 別ニ具体的ナ話等ハ無ク只オ茶等飲ンテ茶話會
丈ケテシタ

オ 昭和七年四月二十日被害達ハ霞ヶ浦航空隊ヲ
見學シタカ豫審ニ被害カ述ベテ居ルノ下八日時
ガ少シ違フ様タカ

ヒ 大休ソウダツタト思ヒマス

オ 見學ノ模様入負内容等ハ曩ニ後藤等カ述ベ
用

ヒ
ソウデス

オ
昭和七年四月二十一日ノ會合ノ内容其他ハ橋カ述

ヒ
ヘ夕通り間違ヒ無イカ

オ
昭和七年四月二十二日被告達ハ水戸ノ東武電力

ヒ
變電所シ見學シタネ

オ
其ノ時ノ模様人負其他ハ橋カ述ヘ夕通り日夕ネ

ヒ
ソウデス

オ
昭和七年四月二十八日後藤カ滿洲ニ行ク為メ

ヒ
出發シタカ自他ハ橋後藤等カ述ヘ夕通りカ

ヒ
ソウデス

オ
塾デハ送別會ヲ開イタネ

ヒ
ソウデス

オ 尚其ノ頃被害ハ橋カラ金ノ調達シ命セラレタ事ガ

アツタカネ

ヒ ソウデス

オ 被害ハ三十圓ヲ得ヘタノダネ

ヒ ソウデス

オ 夫レハ何ノ金ダツタ

ヒ 夫レハ上京シテカラノ費用デシタ

オ 被害ハ五月一日ニ上京シタネー特ニ相談ハ無カツタカ

ヒ ソウデス特ニ相談ハアリマセンデシタ

オ 被害ハ昭和七年五月一日水戸ノ聯隊ニ春田ヲ訪問シ

タネー其ノ理由ハ

ヒ 春田が上海カラ帰ツテ来マシタカラ平素我々ト全

然同一ノ氣持デシタノテ意志ヲ確メ様ト思ツテ面

會シテ話シマシタガ春田ハハツキリシタ事ハ去ハズ

ニ先生ニ會ツテカラト申シテ居リマシタ
被告ハ其ノ日橋ト上京シタネ
ソウデス
オ ソシテ其ノ日ノ午後六時頃ウラ青山ノ日本青年館デ
會合シタネ
ヒ ソウデス
オ 其ノ時ノ協議ノ内容ヤ出席人負等ハ橋ガ述ベタ
通り間違ヒ無イネ
ヒ ソウデス
オ 被告ハ其際川崎長光シシテ西田税シ暗殺サセル
ト云フ事ヲ聞イタカ
ヒ ハツキリハンマセンガ其ノ前後ダツタト思ヒマス
オ 其ノ晩後藤ヲ滿洲ニ見送ツテ行ツテ青年館ニ泊
ツタネ

ヒ ソウデス

オ 昭和七年五月二日、行動ハ日本青年館デ温水カ

ヒ ラ麦電所調査ノ結果ヲ聴イタノダネ

ヒ ソウデス、只所在地又ケデシタ

オ 夫レカラ大貫、塙、温水、小室ト共ニ青年館シ出テ宿

ヒ 所ヲ探シテ歩イタネ

ヒ ソウデス、最初深川ノ富川町夫レカラ本郷ニ来テ探シ

マシタ

オ ソレテ其ノ晩ハ上野ノ新玉旅館ニ大貫ト二人デ泊ッ

ヒ タノダネ

ヒ ソウデス

オ 其ノ晩外出シテ何ヲ買ッタ

ヒ 東京地図ニ枚ト電車案内図ヲ買ヒマシタ

オ 何ノ為ニ買ッタ

ヒ 東京市街地案内図ニ枚ト電車案内図ニ枚ト買ヒマシタ

ヒ 変電所ノ所在地等ヲ知ル為デアリマシタ

オ 次ハ昭和七年五月三日ノ事カカ被告ハ大貫ト一緒ニ

午前八時頃宿ヲ出テ深川富川町ノ三河屋旅館ニ

行ツテ十日位泊ルカラト云フ約束シシタネ

ヒ ソウデス

オ 夫レカラ河原ニ行ツタ

ヒ 十間川、田端、柴川等ノ変電所ノ所在地ヲ見ニ行キ

マシタ

オ 昭和七年五月四日ハドウシタ

ヒ 大貫ト共ニ宿ヲ出テ十間川方面ニ出掛ケテ地理ヲ

研究シマシタ

オ 次ハ昭和七年五月五日ノ行動タガネ一午前九時頃大

貫ト一緒ニ宿ヲ出テ十間川変電所ニ行ツタネ

ヒ ソウデス

オ 夫レカラ上野公園ニ行ツテ図書館、帝室博物館、科
学博物館等ニ這入ツタガ大シテ得ル處ハ無カツ
タネ

ヒ ソウデス

オ ソユデ午後五時頃東京駅ノミ等ノ待合室ニ行ツテ
鳩犬貫小室等集ツテ神田旭所ノ蕎麥屋旭庵ニ
集ツタノタネ

ヒ ソウデス

オ 其ノ時トシテ話が出タ

ヒ 各自ハ調査シ得タコトシ報告シ合ヒマシテ其ノ内
部ニ調査シ様ト云フ事ニナリマシタ

オ ソシテ温水が林ニ報告スルコトニナツタネ

ヒ ソウデス

オ 五月六日ノ行動ハ午前九時頃犬貫ト共ニ宿シ出

下
テ深川ノ米穀倉庫ヲ調査シタネ

ヒ
ソウデス

オ
夫レカラ業川遊園地ニ行ツテ其ノ裏ノ方ノ業川渡

電所ヲ視察シタネ

ヒ
ソウデス

オ
夫レカラ年後八時頃カラ林ノ宅デ會合シタカ其ノ

時ノ話ノ内容出席者等ハ先ニ林ガ述ベタ通りタネ

ヒ
ソウデス

オ
次ハ五月八日ノ行動ガ午前九時頃カラ東電千

住火力發電所、十間川發電所ノ見學シシタノダ

ネ

ヒ
ソウデス

オ
矢張り外部カラ文ケカ

ヒ
千住デハ技師ノ案内テ内部説明ヲ聞キマシタ

オ 其ノ晚又林ノ宅デ會合シタネ
ヒ ソウデス
オ 其ノ内容、出席者等ハ先ニ林ガ述ベタ通りニ
違ヒ無イネ
ヒ 間違ヒアリマセン

(次葉ニ續ク)

大、被書ハ其時東京電十百川夢見取担為ニ著及サレタノ分ネ
ヒ、ソウテス

大、ソレテ其ハ嬖ハ
ヒ、青年會館ニ泊リマシタ

大、次ハ昭和七年五月九日ノ夕、
ヒ、午前十時頃上野駅ニ行キマシタの大豊が来ナカッタ

大、一人ヲナカ川邊ニ夢見取ヲ被書シテ嬖ハ時頃ニ
ヒ、河原旅館ニ歸リテ休マシタ

大、此ハ昭和七年五月十日ノ夕、九日ニハ後孫が病歿カク歸
ヒ、マシタ

大、ソウテス
ヒ、ソコテハ其青年會館ニ以テ後孫ニ手書マシタ

大、其ノ時生帝者誌ノ内容等ハ其ニ楯が述ク通りテ

其ノ噴ハ青年會報ニ由リテハ不

ソウテス

此ハ十日ガ報早ク橋カ上系ニテ来タ不 被生ハ予

審テハ述ハテ居ナク橋ニ後舞ニ述ハテ居ンカウ百書

ニハナクハ口ウネ

百書アリセン

被生ハ其ノ日比也ノ科子博物館ニウツテ

ウキマシタ

何ヲ測ヤニウツテカ

吾等兩家私塾ノ目標ニテハモリヲ測ハニウツテカ

アリセンテシタ

其ノ噴ハ大豊 方根 恒上 共ニ 幸リ所ノ大里 至 核

銀ニウツテ 街知ニウツテ 不

ソウテス

六、 貴土百二橋が午九時四十五分、東京場を協別に出発

七、 三ヶ子車多駅ニ奥送ッテノ外不
ソウテス

八、 去シカテ皆テ下右西里門ノ外、
兼ガ越々通りカ
ソウテス

九、 佐川五月十五日分が大貴寺根沢等ト林宅ヲ尋テ不
倉九時頃ハ午代鐘ニ行ッテカ詳細ハ後報ガ越々通り

十、 百書ヒタイカ
百書ッリマセン

十一、 ソトテ其ノ變ハ月五十カテ腕時計一個ヲ遺ッテノ外不
ハイ男ヒマレソソトテ其ノ變大里志ニ泊リマレソ

十二、 此ハ昭和七年五月十四日分が午九時頃杉坂宅ニ行
ッテ落探手袋ニ取ッ男ッテ不ソテ去シハ書カ

正、我輩一隱威を也又標一人片方完快用と
日伯ヲ買ッテ、外不

トウテス

其ノ機ハ年代錯ノ林ノ起ニツテ手榴彈
配付ノ話ハアツタノ外不

ソウテス

其ノ機ハ年代錯ノ林ノ起ニツテ手榴彈
配付ノ話ハアツタノ外不

百書ヒアリマセン

彼生ハ其機機水が持ッテ居タキ華ト
里華トラシクニ平榴彈カ入ッテ居タ
思ッテ居タカ

思マセンテス
判リニセンテス

此ハ五廿十
九日ノ事カ
ドウシヤ

報五等位
起キテ機水ニ
分ッテ居
ラハ昔里
親ガ坊ニ

二金ヲ拾エト云フ一テ午新此等段日暮里ニ以テ全ク
拾ヒ得ル程細智ノ場ト共ニ川崎カ立込ト見込
以テ食テ等トテハ午代館ニ以テ全ク拾得ル程
リニセンテレシクハ拾得ル程細智ノ場ト共ニ川崎カ立込ト見込
手搦得テ投テハ午代館ニ以テ全ク拾得ル程
一箇交テ二十未実位 齧シテ投テハ口ト復得ル程
マシク

ソレカクハ山室カ早テ人主ツ少ト拾ヒマシク午代館
至テ早テ深川ニ以テキマシテ錦糸堀ノ或ハ金物
櫃ヲ置ヒ花メ 魚ノ著ル所ハ一六等場着キマシク
余リ早テ早テ早川土手テハクワリテ早テ早テ早
十五分頃着ル所ニ以テキマシク

七、 才
彼等ハ今も櫃ヲ置ル所ト云フカ何ノ方ニ置ル所ノカ
妻も棧ヲ敲キ 毀ヌ方ニテス

オ 去レカク

ト 妻重如ノ北側ニテハ凡呂吾包モカク手摺留キヲ

出スヲ悍眼后ボケハトニ入シ西側ニ廻キテボシノ部

死ノ近クニテハ地ヲ飛越ハ(三尺位)地ト紐条

洞ヲシテテ横内ニツキテボシノ部ニツキマシテ

鍵ヲ挿ケテボシノ部ノ門ノ放トニナシテボシノ部ニ

四台ノモトノ一ノが邊摺中ヲシテボシノ部ノ東側ノスツクテ云個

程ノ内ニ個ハ絶縁ニテアリマシテカラ後ノ回ハテ自分

ノ絶縁ニマシテラ全部止ムテ終ヒマシ

オ 去レハ百番ヒテクノ不

ト 百番ヒテリマセシ

オ 去レカク

ト 去レカク人主摺アスツクテ敲キ毀シラトマシソカ

オ 去レカク大キクテ金摺カハサケノテ刺キマセンソコテ

仕方ナク、
おしり、
尾根、
ソシタリ。

粗ヒが狂ハ子、
粗ヒが狂ハ子、

粗ヒが狂ハ子、
粗ヒが狂ハ子、

手付表

捨テマシタ

短刀ハ

一緒ニ捨テマシタ

去シカド、
去シカド、

西南ノ方ニ逃ケテ、
テ切止方、

六、其一晚の物止方へ抱かすか

七、ソウゾス

八、十六日の

九、段水に帰すたかすすし市内ノ様子ヲ見テ至シハ大分

十、無戒ガ嚴重ヲシテテ高野ニ行カハテ新橋ヤリ迄

十一、女ヲ方段ニ逃ガマシタ

十二、其一途中ヲ稱多助等々ニ捕マツタノ外ニ

十三、ソウゾス

十四、去レテハ御告ハ条件ニ妥カ云々者ハ誰ニダト思フ

十五、テマカ

十六、警衛執事外トハ思フテテテマカ

十七、事由ハ

十八、案がとすうと思つてテテマカ

十九、杉浦ハ

エ、トナリト思ハテナリニシタ

カ、海軍ノ古略ヲ持ハ

エ、古略ノ中厨ハ知リテ居タガカ持ハ知リニセンデシタ

カ、士官候補生ハ

エ、知リスセンデシタ

カ、義経撃平目標ハ

エ、若お官郎内大臣官邸為礼ノ三葉交知ヲ等

カ、ナシタ

カ、お器ハ軍部ヲモ奉統ヤ手摘澤外不

エ、利ヲナカウタガ我々ト同じクハウト思ヒユシタ

カ、短刀ハ

エ、奸害ニシテ者ガアレハ威カスナメテシタ

カ、其ノ結果ハドウナント思フタ

エ、お中ノる影響ヲ起ス外ハウト思ヒユシタニ尚戒嚴

金の布カレレ如口口ト思ヒマシク

方 養老撃ノ結果誰シカ殺サレレ如口口トハ志像シナカ

いタカ

方 志像ハシテテリマシカハハヤヤリマシク考

フハアリマセンデシク

方 徳生ハ橋カウ金ハ緩ク世々ツク

方 暑初ハ千銀ヲシテカ全部テ有ニ三十名共世ヒマシク

方 甚一金ハ何処カウ出タト思ハシク 大ツカウ出タト思ハシク

カウツカ

方 夫レハハハキリ判リマセンデシク

方 テハ徳生ハ現在トリ思ハシク居ルカ

方 私ハトリシテモエウシテモ理穴中ノ縁端ヲハトリシモ

ナラナクカウ一ノオヲ捨テハモ 國恥ヲ極揚スルニ見ル

ナシマシク 以テおカ喜ヲタルカ 悪ヲ了ルカハ 考慮ハシク

大、
ソハ本郷塾入所以来の青年部之属として居り不

レソリテス

大、
ソレテ所謂大衆主義、民衆主義、勤労主義、徳

ヲ教養ヲサシテ居りしが

レテ格好アリマス

大、
最初の本郷精神ノ拡大ニヨリて本郷ノ革新ヲ計

ラウトトテ居りしが後ニハ暴力ヲ以テ依りて本郷ノ革新

ヲヤウトトシテモ百毒ヒナク不

レソリテスガ其ノ了ニ就イテ一才半以上タイト思ヒマカ

レ下リ給

大、
彼等ハ十段ノ下ニ干渉ナクカ

レ干渉アリマセン

大、
新長整平汁者ニ若カハ誰レカウ在メラレシカ

レ本郷塾ヲ掃蕩カウ在メラレシマセ

六、 夏五和親を誓ふこと

嘉永初、阿弭多センテシ

六、 昭和七年四月十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

と開き、古賀中尉の来り、茶話會

七、 昭和七年四月十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

八、 昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

九、 昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

十、 昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

十一、 昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

十二、 昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

十三、 昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

昭和七年四月二十日、海軍、古賀中尉が来り、茶話會

カ 甚くは、西向殺暗殺ノ事ハ、今カチカチシカ

エ、ハハキリ殺シヲモリマセン

カ 昭和七年四月廿三日水戸ノ東門外モリノ事電報ノ事

ニシテ、モリノ理由人モ、模倣等ハ先ニ捕ガモリシ事

カ、ハハハハ

カ、モリテアリマス

カ、モリガ、モリノ事、目的ニ後モリガ、モリハハハハ

カ、モリテアリマス

カ、モリハ、昭和七年五月一日ニ上モリヲモリガ、モリノ事

カ、モリハ、モリノ事、モリノ事、モリノ事

カ、モリテアリマス

カ、モリ、モリ、モリ、モリ、モリ、モリ、モリ、モリ

カ、モリハ、モリノ事、モリノ事、モリノ事

カ、モリテアリマス

大、上京より午後之野垣カウ青山ノリキ昔年會館ニ於ケル
會館ニ出陣スル人々ノ内容等ハ先ニ橋カ越ヘテ通り
外口ノ不

トウテアリヌク

大、其等西向ノ夜ヲ暗殺スルト云フコトハ判ルテ吾等カ

判ルテ吾等ノ想ニ思ヒヌク

大、其後後我ハ橋カ越テ立ツタノリキ在來ノ足匠ツテ其

ノ後ハ昔年會館ニ泊ツタ不

ソリテヌ

大、五ノ目一ノリキ動ハ先ニ矢次カ越テテ通りノ今一ノリ動カツタ不

テ、其後我アリヌク

大、五ノ目三ノリキ動ハ橋カ越テテ通りノ今一ノリ動カツタ不

大、五ノ目三ノリキ動ハ橋カ越テテ通りノ今一ノリ動カツタ不

大、十ノ目荒川目白ノ住等五ノ目一ノリ動カツタ不

とまると

六 三河屋 711 同 志 士 考 知 37 伯 口 シ ノ 不
ソウキアリス

大 昭和七年 青田白 午 前 九 時 迄 全 体 ト 宿 下 出 下 全 体 ハ
新 入 下 行 ヲ シ カ 被 告 ハ 何 処 へ 行 ヲ シ カ

大 昭和七年 五月 五日 ハ 全 体 ト 若 二 十 日 川 渡 至 和 カ 下 上 野
因 書 館 博 物 館 科 学 博 物 館 等 二 行 ヲ シ ノ 不

大 昭和七年 午 前 五 時 迄 場 十 室 横 断 費 全 体 等 下 全 体
新 入 全 体 ト 下 智 田 旭 等 一 五 時 迄 全 体 ト 若 二 十 日 川 渡 至 和 カ 下 上 野

大 昭和七年 午 前 五 時 迄 場 十 室 横 断 費 全 体 等 下 全 体
新 入 全 体 ト 下 智 田 旭 等 一 五 時 迄 全 体 ト 若 二 十 日 川 渡 至 和 カ 下 上 野

大 昭和七年 午 前 五 時 迄 場 十 室 横 断 費 全 体 等 下 全 体
新 入 全 体 ト 下 智 田 旭 等 一 五 時 迄 全 体 ト 若 二 十 日 川 渡 至 和 カ 下 上 野

六、 老松アリリスル

六、 池の五里七のりが矢吹ト一緒ニ目白藪石をわたりて
午佐ハ林宅ノ會合ニ出立トシ松ノカキ出立者氏名協成
ノ内答葉ハ極端カ先ニ逃ベク面々外ハ不

六、 ソウチアリリスル

六、 昭和七年五月ハ午九分故宿ヲ出テ午佐十時川ノ邊
不毛山ヲ見学スルヨリモ矢吹カ逃ベク面々外ハ不
午佐九時カテ林宅ノ會合ノ極端ニ全松外ハ
ソウチアリリスル

六、 其ノ時 被差カテ

六、 人食カ足ラテ十ノ松アリテノ極端ニテ承認ヲ得テ
之ヲノ松ノ脱走ニテ水戸ノ温泉ノ旅館ニ一泊致スル

六、 昭和七年五月九日ニ被差ハテ根松興一ヲ劫奪スルノ事
ソウチアリリスル

大 ハニナラズヨク言ワシ

七、 詳しき事ハ話サナリテ只上表と様ト云ヒマシタラ考メテ
居リマシタカ一志主人ニ信シテカウト云フノテ主人ニ信シテ去邊等
ヨリ一是結ノ機ヲテ上表とマシタ

六、 其ノ言根根ニ計畫内書ヲ信シタカ

七、 話ニマシテシタカ恰宜其ノ言ヲ機カ罪シテ居リ
マシタノテ和ハシノ中ニ毛我々ノ同志カ我々ノ事ト話シ
マシタ

六、 其ノ言川原也其ノ事ヲ話シタカ

七、 話ニマシタカ其川原ヲ知リテ居ルカト問キマシタ
カ知ラナイト言ハタカテマシタ

六、 テハ何ノ事ニ事タカ

七、 言根根ハ自分テ大抵ノ事ヲ知リテ居ルカト問キマシタ
像ニテ居リマシタ

六

ソエテ其ノ晩ハ何処ニ泊ルヤ

七

富山ノ一三河原ニ泊リマシヤ

八

昭和七年五月十日ハ

九

矢吹ノ音根村ト一宿ニ宿リ出テ音根村ハ途中ニ

十

別レテ知り合ヒ一廻リ行キマシヤ

十一

其ノ冬金ハ持シヤ

十二

持シマセン

十三

其ノ晩青年雑誌ヲ読スニ合意シテ、話ノ内容ヤ人

十四

等ハ橋ガ西ノ面ノ外ニ

十五

以下は是也

被 幸橋テアリテスリシテ其ノ晩ハ妻ノ幸銀ニ浴リテ

シタ

文 昭和七年五月十日早ノ今合ノ模様ヤ人負内

窓等ニ橋カ速ヘシ通リヨリ速ニ舞イネ

被 写像テアリテセン

文 其ノ始ノリ初メ矢吹カ先刻速ハ通リカネ

被 ソウテス

文 五月十二日ニ矢吹カ速ハ通リカネ

被 ソウテス

文 乙午ノ高根降ト云レシハ何ト云フテ云レシタ

被 燈ノヲ見附ケテ窓ノ様ニト云フテ云レシタ

文 夫レカクモ其ノ晩橋ヲ車中駢ニ見送リテ事一甚向

表屋ニ集ツテ事ハ欠吹カ速ハ通リカネ

被 ソウテスソシテ其ノ晩ハ大黒屋ニ浴リマシタ

3/10

文 昭和七年五月十一日午前九時頃矢吹高根峠
被差一人人テ格下出テ高根峠ト所率テおし夕
不

被 ジウテス

文 夫シカラ矢吹トおシテ此リ一板ニ在ケル格下カニ飯
被 方ノ家々見エリテ日比古公園ヲ散歩シタノカ不
を様テス

文 昭和七年五月十日午前八時頃橋が来タ不
被 塔が来タノテ矢吹ト三人テ上陸ヘリキマシタ

文 シテ午後四時頃松坂屋ヘ入りマシタカ内亮ハ
被 欠吹が述バタ通テテアリス

文 夫シカラトウシタ

被 午後七時頃同端妻尾小ヲ視察シテ所率ニ
シキマシテ古崎新一伯ヲ買タ来マシタ

大 取ハ五月十五日ハドウシタ

祓 午前十時高根俣ト上地軒ヲ合フ事ニテテテテテ

マシケ午台三時坊坊ノ交ハ手楊彈ト懸刀ヲ取リシ

リヤマシタ

實ハ懸刀ハ二本欲シカクカ一奉文ケ知ワタテテテ

シテ交取ルテ高根俣ト二人ヲ尾久カヲ三折島ヲ止歩

イテリリス途中トテ高根俣ニ合夜ノ計画ノ内容ヲ

告ケマシタ

ハシノ内容ハ

祓 其取友部内方並友部惣祝御等ノ陸海軍ノ表

年將機等ノ禁手スルト云フ事ヲ注シマシタ

等ノ事ノ事ハ

云ヒマセニテシタ

大 ソウシタ

祝 高根俣ハ「ヨシ」ト云フテ「取」給レマシタ

又 高ノ崎西向税暗殺ノ事ハ「詔」サ十カツタカ

祝 詔シマセンデシタ

又 女シカラ

祝 高根屋ニ入ッテ手榴弾ノ投ゲ方ヲ教ヘセ給テ出掛

ケテ「舞」テ「計」ヲ「合」セテ「備」シマシタ

又 トシテ準備ヲシタ

祝 高根手榴弾ハ「マ」一「部」ヲ「ホ」ケ「ツ」ト「三」メ「シ」マ

シタ

又 女シカラ

祝 高ノ崎七崎十番ニ入ッテ「高根俣」ニ「見張」リ「テ」

也「子」置「イ」テ「三」尺「位」ノ「屏」ヲ「飛」越「シ」テ「構」内「ノ」ホ「ニ」テ「入」

ノ「方」ニ「入」リ「マ」シ「タ

又 女シカラ

被 系が少座ハ等弁小サクテ之能ハ飛イテ居テスイワキ

ハニツアリモ一ターハ初イテ居ルミシタ

被 火 絶縁シテオカワツタカ

被 絶縁シテオカワツタノテ絶縁シタラ止リマシタリ

エテスイワキヲハンマ一テ打チ毀レシタラ毀レテ終

ヒマシタ

被 火 火シテ伝車ハ終ツタノテ勢ヨク外ニ生テ音根母ニ「投

ケロ」ト云ツタラ「絶」ケロト云ソイタラシク懐テテ投ケ

タラカテ「ト」者ケシタズケテシタ

被 火 火シケラ

被 火 火シケラ短刀ハ板ニニシテ構内ニ捨テマシタ手袋

等モ亦「捨」テマシタ火シケラレトニエトトウ着テ火ト

出マシタ

被 火 手榴弾ハ爆発スルモノトハ思ハフオツタカ

被 火 手榴弾ハ爆発スルモノトハ思ハフオツタカ

被 勿涕爆発スルモノト思フテ居ルマシタカク身ニ終リマ

シタ

被 夫シカラ

被 因タリテ指ツテ上座野ニリツテ五分一白程様子ヲ見

テ居リマシタカク電氣ハ此ト云捕ヘマセンデシタ夫シカ

ラ更ニ甚橋ノニニリヤマシタラ郷ノテ初メテ是

右友郎義經手等ヲ別リマシタ

夫シカラ十時頃ニナツテモ橋須カ夫ニ塔ニ来テイハッテ

或ハ捕ツタノカナトソ口ニク子安ヲ終ニ出シマシタ

ハハハ下敷言等アリ

被 夫シテハ訊スルガ要理ハ義經終手ノ汁書ハ誰カシタ

橋カ汁書シタシタ

決シテ一書ハ義經ハ

被 右友郎ト射書アリシタ